

# 保育大学生における発達障害児に関する意識調査

脇 輝 美

The Research of Childhood Education  
Students' Consciousness about Developmental Disorders

Terumi WAKI

## はじめに

発達障害には、自閉症、注意欠如多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）等があり、近年では保育や教育の現場でその対応がさまざまに検討されている障害である。平成17年4月1日に発達障害者支援法が施行されてからは、医療、福祉、教育関係者以外にも徐々に知られるようになってきたこれらの障害であるが、専門的な知識をもってかかわっている関係者は現場には多くない。特に保育者を目指す養成校の学生においては、将来、発達障害児にかかわっていくのは必至となるが、大学の授業の中で現場に対応できるほどの学習を積んできているかは、疑問に思われた。そこで今回、本短期大学の保育を学ぶ学生に、発達障害児に対する意識調査を行い、学生が実習現場での発達障害児へのかかわりにおいて、どのような不安や戸惑いを感じているかを知り、発達障害を学習する上での課題を明確にしたいと考えた。

## 研究方法

### 1. 研究対象

2008年度の別府大学短期大学部初等教育科1年生116名、初等教育科2年生107名、保育科1

年生48名、保育科2年生66名、合計337名。

### 2. 調査方法

自記式による質問紙調査方法で、集合調査にて行った。質問紙は、大学入学前の発達障害児に対する認識度と、入学後、実習後の認識度、また実習場所での発達障害児とのかかわりについての感想、発達障害への取り組みに対しての大学への要望等について問うた。

### 3. 調査期間

2008年9月12日～9月19日

### 4. 倫理的配慮

研究対象者には研究の目的、回答は無記名でよいこと、また結果は統計的に処理することで個人的情報は秘匿され、調査結果は目的以外には使用しないことを、口頭により説明を行った。回答は各個人の自由意志にまかせ、質問紙の回答により研究への参加の同意が得られたとすることを事前に説明した。

## 結果および考察

### 1. 回収率

342名に配票し、337名から回答を得られた。（回収率98.5%）そのうち有効回答数は337名

であった。(有効回答率100%)

## 2. 大学入学前の発達障害児の認識度

大学に入学するまでに発達障害児とかかわった経験のある学生は63.5%であった(図1)。そのかかわった障害児の発達障害の種類は、『知的障害』が162名と最も多く、『学習障害』が46名、『自閉症』が41名、『ADHD』が29名であった(図2)。また、どのようなところがかかりを持ったかは、『同じ学校に在籍していた』が143名で最も多かった。次に『ボランティアで参加したところ』が47名、『中学・高校の授業の中』が37名、『親戚にいる』が13名、『近所にいる』が11名であった。このことより、半数以上の学生は発達障害児とのかかわりを経験しており、その多くが同じ学校の生徒としてのかかわりであったといえる。しかし、自閉症やADHDの障害児とのかかわりを持った学生は多くないことがうかがえる。

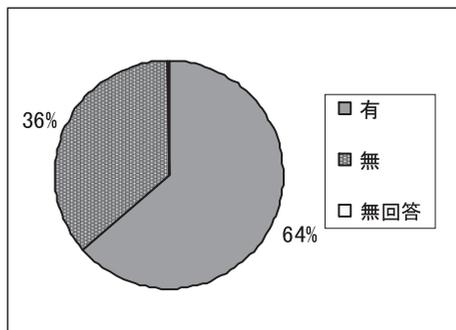


図1 大学入学前の発達障害児とのかかわりの有無

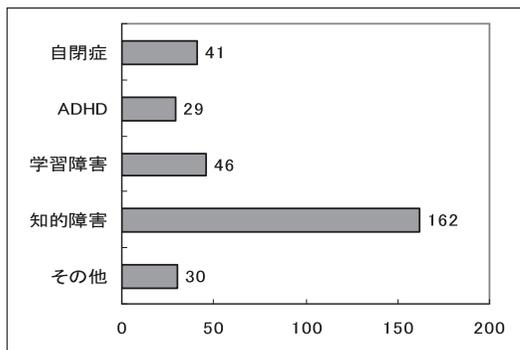


図2 かかわったことのある発達障害児 (複数回答)

## 3. 実習前の自閉症に関する認識

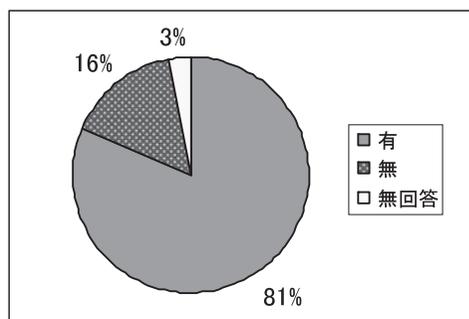


図3 実習前の自閉症に関する知識の有無

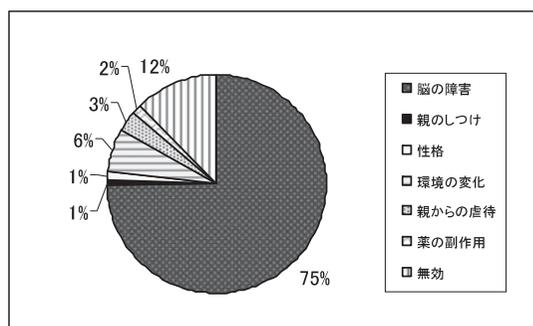


図4 自閉症の原因

実習前に自閉症に関しての知識は、『有った』が81.3%であった(図3)。何で自閉症を知ったかという問いに対して、『テレビ』が263名、『授業』が246名、『漫画』44名、『新聞』13名、『雑誌』12名であった。授業では1年生, 2年生ともに障害児の学習をしたが, 授業で学んだことへの意識が低い学生がいることが明らかになった。これより, 少数ではあるが授業に集中できない学生に対して, 関心の持てる授業の工夫をする必要があるだろう。また, 自閉症の原因については、『脳の機能障害』と答えた学生が74.8%, 『環境の変化』が6.2%, 『親からの虐待』が3.0%, 『薬の副作用』が1.8%, 『性格』が1.2%, 『親のしつけ』が0.9%であった(図4)。授業では, 自閉症は親のしつけのせいでも, 本人の性格からきてるものではないことを強調したつもりであったが, 4分の1の学生が誤った認識を持っていた。これは, 授業で学習したと意識していない学生がいることから, 知

識として習得していないことが原因の一つと考えられる。自閉症等の発達障害はまだ社会で十分認識されておらず、世間が持っている誤った認識が、本人やその家族の生活上に、困難を生じさせている場合が少なくない。子どもにかかわる保育や教育の関係者が、特に正しい認識のもと、障害児や家族の支援に当たることが求められる。大学での授業では学生が誤った認識を持っていないかを確認していく必要があると感じた。

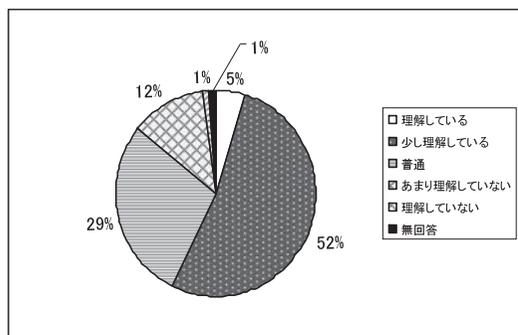


図5 自閉症への理解度

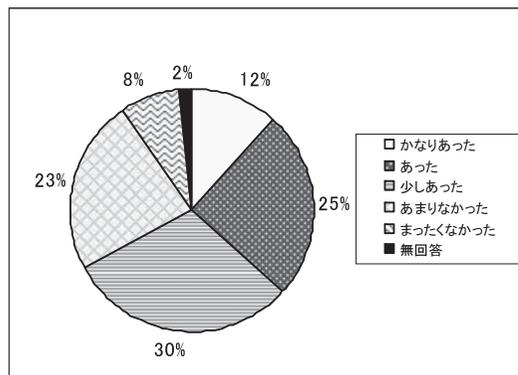


図6 実習前の発達障害児とのかかわりへの不安

自閉症に対する理解度は、『理解している』が4.7%、『少し理解している』が52.5%、『普通』が28.5%、『あまり理解していない』が12.2%、『理解していない』が0.9%であった(図5)。8割以上の学生が、「自閉症に対してある程度理解している」と認識している。また実習の前に発達障害児とかわることへ不安があったかの問いには、『かなりあった』が11.6%、

『あった』が25.2%、『少しあった』が30.3%、『あまりなかった』が23.1%、『まったくなかった』が8.0%であった(図6)。このことより、実習の前には、8割以上の学生が発達障害児とのかかわりに関して不安を抱えていることがわかった。つまり、ある程度の理解はあっても、実際、かわるとなると学生は不安を持つといえる。どのようなことに不安を感じたかという点、『コミュニケーションのとり方』が219名と、6割以上の学生が発達障害児とのコミュニケーションに不安を感じていた。また、『知識』が85名、『生活援助全般』が66名、『他の園児への対応』が22名、不安を感じていた。

また、知識と不安度の関連をみたが、自閉症の原因が『脳の機能障害』と答えた学生252名中、『不安がない』と答えた学生は79名、自閉症の原因を『脳の機能障害』以外の答えを選んだ学生45名中、『不安がない』と答えた学生は26名であった。誤った知識を持った学生の半数以上が実習前に不安を感じておらず、その割合は正しい知識を持っている学生より多いという結果になった。これから、自信をもって子どもとかかわる学生が、必ずしも正しい認識を持っているとはいえない点を踏まえて、実習指導には慎重に当たっていく必要があると考えられた。

#### 4. 実習場所の発達障害児への取り組み

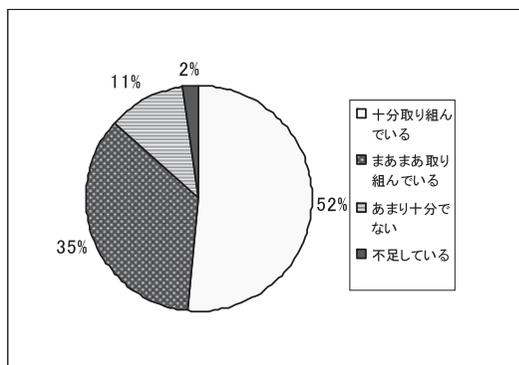


図7 実習園の発達障害児への取り組み

実習場所に発達障害児がいたか、という問いに対して、60.8%の学生が『いた』と答えていた。また、接した発達障害児の年齢は、年小よ

りも年中・年長児の4歳・5歳児が多かった。実習園の発達障害児に対する取り組みについては、『十分取り組んでいる』と感じた学生は51.5%、『まあまあ取り組んでいる』が35.2%、『あまり十分でない』が11.0%、『不足している』が2.2%であった(図7)。このことより学生は、保育所や幼稚園の発達障害児に対する取り組みを、肯定的に評価しているといえる。

実習園の取り組みでよかったと思える点は、

『コミュニケーションのとり方』が216名(64.1%)、『他の園児への対応』が105名(31.1%)、『保護者へのかかわり方』が103名(30.5%)、『生活援助全般』が93名(27.6%)、『学生への指導』が78名(23.1%)、『関連機関との連携』が44名(13.1%)、『専門的知識の職員への教育』が39名(11.6%)であった(図8)。このことより、学生は保育所や幼稚園は発達障害児とのコミュニケーションのとり方は評価しているといえる。

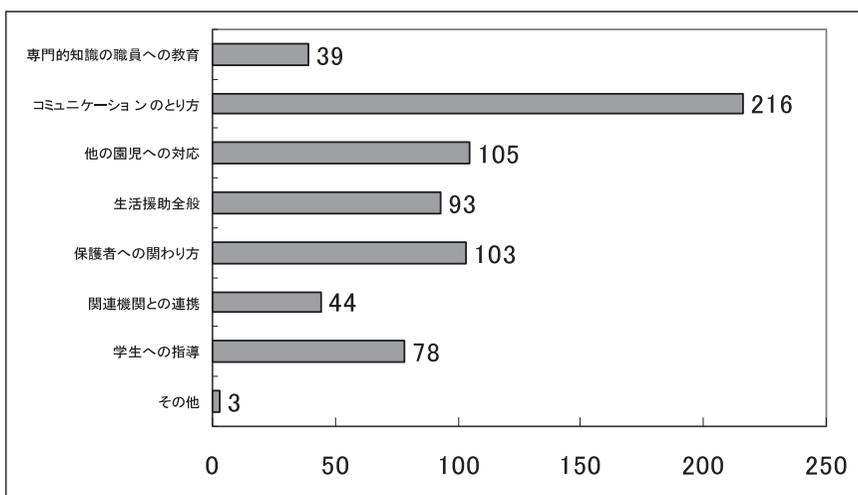


図8 実習園の取り組みでよかったと思った点(複数回答)

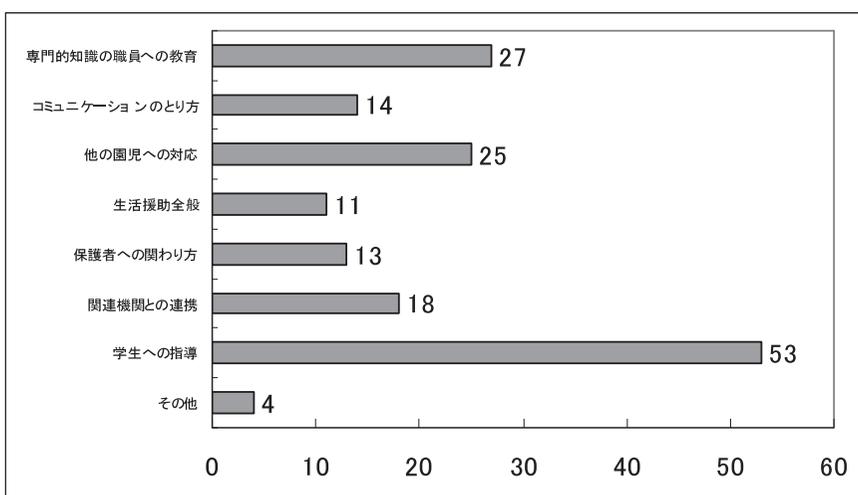


図9 実習園の取り組みで不足していると思った点(複数回答)

実習園の取り組みで不足していると思った点は、『学生への指導』が53名(15.7%),『専門的知識の職員への教育』が27名(8.0%),『他の園児への対応』が25名(7.4%)であった(図9)。このことから、学生は保育所や幼稚園に対して、発達障害児へのかかわりにおいて、より徹底した指導を求めていることがわかった。

大分県が平成20年3月にまとめた「発達障害児者支援体制整備基本方針」によると、関連機関にどのような支援を求めているかという問いに対して、保育所の47.8%が、専門機関からの具体的な助言や指導等の支援を希望していることがわかっている。また幼稚園の33.0%が、障がい、かかわり方の情報、研修を希望している。このことから保育所や幼稚園が発達障害児への対応に関して、もっと取り組みを充実させていきたいという意識だとうかがえる。学生はおそらく園が自己評価している以上に、その取り組みを評価していると思われるが、養成校側としては発達障害児に関しての学生への指導を、さらに力を入れていただけよう願いたい。

### 5. 学校への要望

発達障害児への対応に関して大学に希望することを問うたところ(表1)のような結果になった。学生の半数以上は、『実際に障害児と接している人からの体験談を聞きたい』と希望している。これから、より具体的な、実際的なかかわり方を学びたいと望んでいると考えられる。また、『障害児とかかわる実習がしたい』や『授

表1 発達障害児への対応に関しての大学への要望 (複数回答)

障害児とかかわる実習がしたい	116名 (47.5%)
実習以外でも障害児とかかわる場があるといい	121名 (35.9%)
授業でもっと詳しく学習したい	160名 (47.5%)
実際に障害児と接している人からの体験談を聞きたい	171名 (50.7%)

業でもっと詳しく学習したい』も半数近くの学生が希望していることから、発達障害児のかかわりに関して学生への学習意欲は高いといえる。

また、発達障害について大学の授業で特にどのようなことを学びたいかという問いに対して(表2)のような結果となった。9割近くの学生が『コミュニケーションのとり方』について学びたいと思っており、発達障害児とのコミュニケーションが他の子どもたち以上に専門的な知識や技術を要することを示していると思われる。また、その他の項目においても学びたいと考えており、発達障害に関する関心は高いといえる。今後の授業については、これらの結果を踏まえて、幅広くかつ実践的な知識や技術の学びができるような授業構成が重要だと考える。

表2 発達障害についての授業で特に学びたいこと (複数回答)

症状	187名 (55.5%)
治療方法	81名 (24.0%)
コミュニケーションのとり方	297名 (88.1%)
他の園児への対応	131名 (38.9%)
生活援助全般	168名 (49.9%)
保護者とかかわり方	134名 (39.8%)
専門機関の取り組み	62名 (18.4%)

### 6. 発達障害児との今後のかかわり

発達障害児を健常児とともに保育、教育することについてどう思うか、という問いに対しては、『賛成』が84.0%、『反対』が2.1%、『どちらでもない』が11.9%であった(図10)。ともに保育、教育することに賛成の理由としては、『別々だと差別のように感じる』、『一緒にいるだけで双方伸びる面があると思うから』、『他の健常児が障害児に対して偏見なく接することが

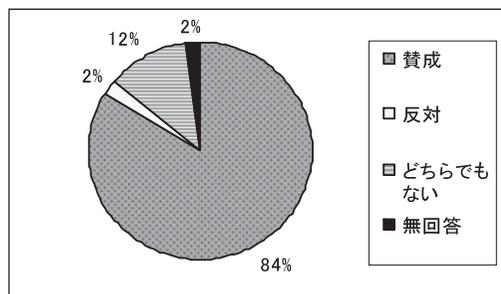


図10 発達障害児を健常児とともに保育教育する

できるようになるから'等の意見が多かった。反対意見は少数ではあるが、'その子どもにあったペースで教育することが大事だから'と、発達障害児のよりよい保育、教育を考えた上での意見だといえる。『どちらでもない』の理由としては、'障害の程度によって違ってくると思うから'というもので、ともに保育、教育することの利点欠点を考えているといえる。これらの学生の回答から、学生は発達障害児と健常児を分けて教育することよりは、ともに育つことの重要性を感じている。しかし、障害の程度によっては、その子どもにより適した環境がなにかを吟味することの必要性も感じているといえる。

また、発達障害児と今後もかかわっていききたいか、という問いに対しては、『はい』が71.4%、『いいえ』が0.6%、『わからない』が28.0%であった(図11)。発達障害児とかかわりたいと思わない学生が少数であったことは養成校としては、安心した結果といえるが、少数ではあるが発達障害児とのかかわりに消極的な学生がいることも重視する必要がある。今回の調査ではその理由を直接に問うことはしていないが、これまでの調査の結果から考えると、発達障害児との対応に不安を感じているということが予想される。さらに就職に関して、発達障害児の保育や教育に積極的に取り組んでいる保育所や幼稚園、施設に就職したいと考えるか、という問いに対して、『はい』が62.8%、『いいえ』が1.8%、『わからない』が35.4%であった。調査の対象に1年生がいたので、将来の就職に関しても意識があまり高くないことも影響して

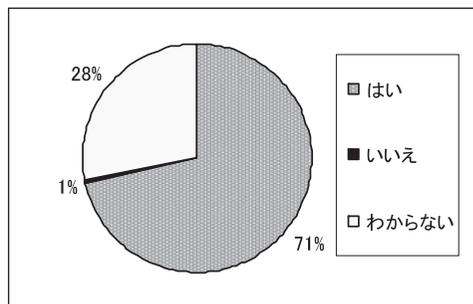


図11 発達障害児と今後もかかわりたい

いると思われる。しかし、今後、発達障害児の保育、教育はすべての保育所や幼稚園が積極的な取り組みが求められていることより、養成校としても保育者を目指す学生が、発達障害児との保育、教育に積極的にかかわりたいと思えるような自信を持てるように支援することが課題となる。

#### まとめ

1. 学生は、大学に入学する前に6割以上が発達障害児とかかわりを持っており、実習前には8割以上の学生が自閉症に関してのある程度の理解をもっている。しかし、実習で発達障害児とのかかわりに対しては、7割近くの学生が不安を感じていた。また、誤った認識を持っている学生の中には、発達障害児とのかかわりに自信を持っているものも多く、そのため大学での学習では正しい知識を習得していることを確認することが求められる。
2. 学生は、実習した園の発達障害児に対しての取り組みを、おおむね肯定的に評価していた。とりわけコミュニケーションのとり方はよかったと評価している。また、取り組みで不足していると感じている点に関しては、学生への指導をあげている。これより、学生の実習での様子をより密に観察し、実習園との連携を深めることが大切と考える。
3. 学生の発達障害児に関する大学の授業に対しての要望は、全体的に高い。実際的で具体的な指導内容を期待しており、特にコミュニケーションのとり方については9割近い学生

が学びたいと考えている。そして、幅広く知識、技術を学びたいと思っており、この学生の意欲に応えていくことを重く受けて止めて授業内容に反映していくことが今後の課題となる。

4. 7割の学生は発達障害児と積極的にかかわりたいと思っているが、少数ながら発達障害児とのかかわりに不安を感じている学生がいることもわかった。そのことより、学生が発達障害児とのかかわりに自信を持てるような大学の支援が必要となる。

#### 文 献

- ・白石正久：自閉症児の世界を広げる発達の理解 - 乳幼児期から青年・成人期までの生活と教育 - ，かもがわ出版，2007
- ・田中康雄：気になる子の保育 Q&A - 発達障がいと理解とサポート - ，株式会社学習研究社，2008
- ・丸山美和子：LD・ADHD，気になる子どもの理解と援助，かもがわ出版，2002
- ・別府悦子：ちょっと気になる子どもの理解，援助，保育 - LD,ADHD，アスペルガー，高機能自閉症児 - ，ちいさいなかま社，2006
- ・三木裕和，小谷裕実，奥住秀之：自閉症児のココロ - 教育，医療，心理学の視点から - ，クリエイツかもがわ，2007
- ・平岩幹男：幼稚園・保育園での発達障害の考え方と対応，少年写真新聞社，2008
- ・内藤祥子：高機能自閉症 誕生から就職まで，ぶどう社，2008

◆当てはまるものに○をして下さい。

(1)大学に入学するまでに発達障害児とのかかわりがありましたか。 1. はい 2. いいえ

(2)かかわりがあった人にお尋ねします。どのような発達の障害でしたか。(複数回答可)

1. 自閉症 2. 注意欠陥多動性障害 3. 学習障害 4. 知的障害 5. その他( )

(3)かかわりがあった人にお尋ねします。発達障害児とはどこでかかわりを持ちましたか。(複数回答可)

1. ボランティアで参加したところ 2. 中学・高校の授業の中 3. 同じ学校に在籍していた  
4. 親族にいる 4. 近所にいる 5. その他( )

(4)ボランティアに参加してかかわったことのある人にお尋ねします。どのようなボランティアですか。

[ ]

(5)実習前に自閉症に関する知識はありましたか。 1. はい 2. いいえ

(6)自閉症を何で知りましたか。(複数回答可)

1. テレビ 2. 雑誌 3. 新聞 4. 漫画本 5. 授業 6. その他( )

(7)自閉症に対する認識の程度をお答えください。

1. 理解している 2. 少し理解している 3. 普通 4. あまり理解していない 5. 理解していない

(8)自閉症の原因は何だと考えられますか。

1. 脳の障害 2. 親のしつけ 3. 性格 4. 環境の変化 5. 親からの虐待 6. 薬の副作用

(9)実習の前に発達障害児にかかわることへの不安はありましたか。

1. かなりあった 2. あった 3. 少しあった 4. あまりなかった 5. まったくなかった

(10)不安があったという人にお尋ねします。どのようなことに関して不安がありましたか。(複数回答可)

1. 知識 2. コミュニケーションのとり方 3. 他の園児への対応 4. 生活援助全般  
5. その他( )

(11)実習場所に発達障害児はいましたか。 1. いた 2. いない 3. いたと思う 4. わからない

(12)その発達障害児について年齢別の人数を分かる範囲で答えてください。

・1歳児( )人 ・2歳児( )人 ・3歳児( )人 ・4歳児( )人 ・5歳児( )人

(13)実習園の発達障害児に対する取り組みについてどのように感じましたか。

1. 十分取り組んでいる 2. まあまあ取り組んでいる 3. あまり十分でない 4. 不足している

(14)実習園の取り組みでよかったと思った点は何ですか。(複数回答可)

1. 専門的知識の職員への教育
2. コミュニケーションのとり方
3. 他の園児への対応
4. 生活援助全般
5. 保護者へのかかわり方
6. 関係機関との連携
7. 学生への指導
8. その他( )

(15)実習園の取り組みで不足していると思った点は何ですか。(複数回答可)

1. 専門的知識の職員への教育
2. コミュニケーションのとり方
3. 他の園児への対応
4. 生活援助全般
5. 保護者へのかかわり方
6. 関係機関との連携
7. 学生への指導
8. その他( )

(16)発達障害児への対応に関して大学に希望することがありますか。(複数回答可)

1. 障害児とかかわれる実習がしたい
2. 実習以外でも障害児とかかわれる場があるといい
3. 授業でもっと詳しく学習したい
4. 実際に障害児と接している人から体験談を聞きたい
5. その他( )

(17)発達障害について大学の授業で特にどのようなことを学びたいですか。(複数回答可)

1. 症状
2. 治療方法
3. コミュニケーションのとり方
4. 他の園児への対応
5. 生活援助全般
6. 保護者とのかかわり方
7. 専門機関の取り組み
8. その他( )

(18)発達障害児と今後もかかわっていきたいと思いますか。

1. はい
2. いいえ
3. わからない

(19)発達障害児を健常児とともに保育、教育することについてどう思いますか。理由もお書き下さい。

1. 賛成
2. 反対
3. どちらでもない

( )

(20)発達障害児の保育や教育に積極的に取り組んでいる保育所や幼稚園、施設に就職したいと考えますか。

1. はい
2. いいえ
3. わからない

(21)発達障害児とかかわって感じたことがあればお書き下さい。

( )

質問紙へのご協力、ありがとうございました。